



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)株式会社やまみ富士山麓工場3期増築	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5	ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6	/5	がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④排水管B、建物内給水管D、通気管Bを上位3種とし、耐久性に配慮した 	Q-1 2	2.1 2.1.2 ① 外皮性能	
	Q-1 3	3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③ 昼光制御		
	Q-2 2	2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1	2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	3	2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦工場単一用途のため対象外 ⑨BEIm=0.35としエネルギー効率の高い設備を積極的に導入する計画とした 	LR-1 1	2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	2	2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
	3	2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	4	2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪井水の積極的な活用 ⑫基礎部分に高炉セメントB種を採用 ⑬LGS+ボード+GWとし分別が容易な天井・壁仕上構成とした ⑬塗床材(床仕上材)は有害物質を含まない成分とした 	LR-2 1	2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	1.1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無		
	1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無		
	2	2.1 ⑫ 材料使用量の削減	
	2.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	2.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	2.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
3	3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用		
3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤			
3.2.2 ⑬ 断熱材			
3.2.3 ⑬ 冷媒			
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2排出率を71%に抑えた ⑮卓越風向に対する建築物の見付面積を53%に抑えた 	LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮	
	2	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.8
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2	2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性	
		2.1.2 ⑯ 免震・制振性能	
	2.4	2.4.1 ⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備		
	2.4.3 ⑰ 電気設備		
	2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法		
	2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.3
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲5mを超える階高平均とした ⑲壁長さ比率を抑えプランニング変更に対応可能な設計とした 	Q-2 1	1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3	3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり	
		3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-3 3	3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	2	⑥ ② まちなみ景観への配慮	
	3	3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮気象台データを使い風環境を把握し、卓越風向に対する建築物の見付面積を53%に抑えた 	LR-2 2	2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3 2	2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	

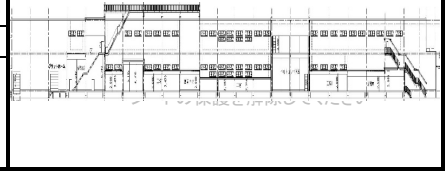
CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築新築2021年SDGs対応版_速報版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社やまみ富士山麓工場3期増築	階数	地上2F
建設地	静岡県駿東郡小山町湯船字下原959-16	構造	S造
用途地域	指定なし・法22条地域	平均居住人員	60 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年6月11日
敷地面積	11,280 m ²	作成者	金原 浩一
建築面積	4,421 m ²	確認日	
延床面積	8,138 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項

総合		その他
法規制をクリアし、建築主の求める諸条件を満たす設計とする 既設棟にある機能を今回また将来工事に向け可能な限り再利用・再構築するよう配慮。かつ省エネルギー性能を高めるよう努めた。 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		申請は既存棟を一体とするため仮想敷地範囲に既存棟を含む
Q1 室内環境 執務エリアがないため評価対象外とする(Q2_1まで)	Q2 サービス性能 耐久性のある配管を採用、電気配線はケーブルラックにまとめ、快適さとメンテナンスのしやすさに配慮 荷重や空間の自由度が高くプランニング変更への対応が容易	Q3 室外環境(敷地内) 周囲からの視線を遮るような塀は設置せず見通しの良さに配慮
LR1 エネルギー 省エネルギー性能の高い設備を導入	LR2 資源・マテリアル 井水利用、基礎部分に高炉セメントB種を採用、解体の際分別が容易な部材構成とする配慮	LR3 敷地外環境 法規制をクリアし、敷地外への負荷を可能な限り抑えるよう配慮

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される